

日本学術会議 公開シンポジウム

アクティベーション改革と福祉国家

2017年1月11日(水) 14:30~18:00

場所：日本学術会議講堂 (事前予約不要・入場無料)

東京都港区六本木7-22-3 (東京メトロ千代田線 乃木坂駅下車 5番出口徒歩1分)

アクティベーション改革は、かつての給付を中心とした社会保障制度とは異なり、労働市場への参加こそが貧困や社会的排除に関する問題を解決する、という見方を根底にすえている。しかし、他方で、非正規雇用などの増加により、「働く貧困層」が拡大しているという現実もある。

本シンポジウムでは、オランダの経済学者と日本の労働法、社会保障法学者がそれぞれ報告を行い、日欧のアクティベーション改革の影響とこれからの社会保障のあり方について検討する。

14:30 【趣旨説明】

14:35 【第1報告】 **レイ・デルセン** (オランダ・ラドバウド大学経営学部准教授)

「欧州福祉国家におけるアクティベーション改革とオランダの事例」 (逐次通訳付)

16:15 【第2報告】 **島田 陽一** (日本学術会議連携会員:早稲田大学法学学術院教授)

「労働法の視点からみたアクティベーション改革と社会保障」

16:50 【第3報告】 **井上 英夫** (日本学術会議連携会員:金沢大学名誉教授)

「アクティベーション改革とセーフティ・ネット」

17:25 【コメント】 **石橋 敏郎** (日本学術会議連携会員:熊本大学教育学部特任教授)

小澤 隆一 (日本学術会議連携会員:東京慈恵会医科大学教授)

【まとめ】 **廣瀬 真理子** (日本学術会議第一部会員:東海大学教養学部教授)

18:00 【閉会】

主催：日本学術会議法学委員会「セーフティ・ネットのあり方を考える」分科会